

# 第59次 教育研究愛知県集會に参加して

10月31日(土)、愛知県産業労働センターにおいて、第59次教育研究愛知県集會が開催されました。生活科教育部会では32本のレポートが持ち寄られ、子どもたちの思いや願いを実現するために、地域の自然や素材、人々を教材化した実践が報告されました。

愛知教育大学の久野弘幸先生、豊川市立金屋小学校の笹島茂美先生を助言者に迎えてご指導・ご助言をいただきながら、午前中には「地域とのかかわり」と「人とのかかわり」を、午後には「飼育・栽培」と「自分自身への気付き」をテーマにして、4部構成で熱心な発表・討論がなされました。以下に討論の報告をさせていただきます。

## ＜地域とのかかわり＞ …提出レポート8本

ここでは、生活科の実践全体にかかわることとして、「子どもに単元の見通しを伝えるべき」なのか、「子どもの思いによって単元を進めていくべき」なのかという話し合いがされました。身につけたい力が教師側で明確になっており、かつ子どもに伝えることが必要であれば前者であるし、学級の子どもたちが十分に育っているのならば、後者も1つの手だてではないかと確認されました。また、低学年では動作化など身体表現が主体的に物事を見つめるのに有効であり、それを通して「対象が私的にわかっていく」、そして、それが「科学的な見方へつながっていく」というご助言もいただきました。



## ＜人とのかかわり＞ …提出レポート6本

ここでは、他教科・領域(国語科や道徳、音楽科など)との関連を図った実践発表がされました。その中で本市・井田小学校の「おもちゃまつり」での異学年交流、また単元計画・教師との対話に着目した実践も報告させていただきました。

学習指導要領改訂の趣旨の中にも「他教科と積極的にかかわる」と明記されていることから、もっと国語科・音楽科・図画工作科などとの積極的な関連を図ってほしいというご助言がありました。また、対話は子どもの気付きの質を高めるとともに評価をする場としても注目されていることや、低学年では具体的な活動や体験を通してから話し合い活動を進めてほしいというご助言がありました。

## ＜飼育・栽培＞ …提出レポート12本

子どもがアサガオやザリガニに同化して気持ちを考えたり動作化したりしていく実践報告がなされました。ある程度成熟してきた教材はともすると学ぶ「わくわく感」が失われてしまいがちであるので、育てたものを収穫する喜びなどを子どもにしっかりと味わわせてほしいというご助言がありました。また、指導要領の改訂で重視されている「科学的な見方・考え方」については、3年生理科を先取りするという意味ではなく、生活科ではその基礎基本として「自然の面白さや不思議さ、心地よさ」を十分味わわせてほしいというご助言もありました。

## ＜自分自身への気付き＞ …提出レポート6本

ここでは気付きの質の高まりや自己の成長にかかわる実践の報告がなされました。本市・緑丘小学校の町探検の実践では、地域や保護者と密接にかかわりながら子どもの気付きの質を高めていく様子を報告させていただきました。ここでは「自己肯定感・観」について、ものの見方・考え方の原則となり、成長の感覚を育てる基礎となるので大切にしてほしいというご助言をいただきました。

### 【全体を通してのご助言・ご指導】

1. 単元だけの実践報告が多かったが、その単元前後の意味付け・価値付けが重要。その部分にもふれたレポートが出されるとよい。
2. 全体に「テーマ性」が弱い感じを受ける。実践そのものの質は高いので、論述の切り口・子どもを見取る視点をはっきりさせるとともにこれまでと少し変えてみてほしい。(例として、体験と言語を結びつける、伝え合う活動、幼保との関連など)
3. 子ども理解と教材研究を進め、学校生活全体で生活科の指導をしてほしい。

\*\*\*\*\*

今回、愛知県集會に参加させていただき、県内各地の熱心な実践に触れることができ、多くのことを学びました。また、助言者の先生方からいただいた貴重なアドバイスも、今後の糧となりました。今回の経験を生かし、今後も子どもに寄り添った生活科の実践ができるよう努力を重ねたいと思います。ありがとうございました。  
(緑丘小学校 佐橋 百代 井田小学校 石黒 智康)